

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和3年7月～9月期）

《全 業 種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7～9月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				前期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				今期(令和3年7～9月)と比べた 来期(令和3年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	26.2	26.2	47.5	△ 21.3	25.8	27.4	46.8	△ 21.0	46.8	33.9	19.4	27.4
2 採算	20.0	40.0	40.0	△ 20.0	16.7	36.7	46.7	△ 30.0	33.3	40.0	26.7	6.7
3 仕入単価	47.5	50.8	1.6	45.9	38.7	58.1	3.2	35.5	45.2	51.6	3.2	41.9
4 従業員数					3.4	91.4	5.2	△ 1.7	8.6	91.4	0.0	8.6
5 資金繰り					5.1	66.1	28.8	△ 23.7	17.2	60.3	22.4	△ 5.2

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
	8.3	45.0	46.7	-38.3		28.3	43.3	26.7	1.7		3.3	71.7	20.0	△ 16.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	46.8	16.1	6.5	69.4	8 設備店舗の狭小・老朽化	4.8	12.9	12.9	30.6
2 大企業進出による競争激化	1.6	4.8	4.8	11.3	9 取引条件の悪化	1.6	0.0	0.0	1.6
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	3.2	4.8	8.1	16.1
4 原材料高及び不足	14.5	12.9	12.9	40.3	11 需要の停滞	9.7	19.4	14.5	43.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	3.2	0.0	3.2	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	9.7	8.1	6.5	24.2	13 その他	4.8	0.0	1.6	6.5
7 人件費の増加	3.2	3.2	4.8	11.3	無回答	0.0	14.5	27.4	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《製造業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7～9月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				前期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				今期(令和3年7～9月)と比べた 来期(令和3年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	33.3	33.3	33.3	0.0	11.1	22.2	66.7	△ 55.6	77.8	11.1	11.1	66.7
2 採算	33.3	33.3	33.3	0.0	11.1	11.1	77.8	△ 66.7	66.7	0.0	33.3	33.3
3 仕入単価	44.4	55.6	0.0	44.4	22.2	66.7	11.1	11.1	22.2	66.7	11.1	11.1
4 従業員数					0.0	100.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0	11.1
5 資金繰り					12.5	37.5	50.0	△ 37.5	50.0	25.0	25.0	25.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		11.1	22.2	66.7		△ 55.6		12.5	37.5		50.0	△ 37.5		11.1

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	66.7	22.2	0.0	88.9	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	22.2	33.3	55.6
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	11.1	11.1	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	11.1	11.1	22.2
4 原材料高及び不足	0.0	22.2	11.1	33.3	11 需要の停滞	11.1	11.1	22.2	44.4
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	11.1	0.0	11.1	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	11.1	0.0	0.0	11.1	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	11.1	0.0	11.1	22.2	無回答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 同業他社の買収など、経営環境は厳しさを増している。
- ・ 夏場の天候不順の影響により盆以降が前年同期より悪かった。
- ・ 材料の仕入れ価格の高騰が止まらない状況。
- ・ 緊急事態宣言による酒提供禁止の影響が大きい。宣言解除後の消費回復に不安。

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7～9月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				前期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				今期(令和3年7～9月)と比べた 来期(令和3年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	25.0	50.0	25.0	0.0	37.5	37.5	25.0	12.5	25.0	50.0	25.0	0.0
2 採算	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	37.5	37.5	△ 12.5	0.0	75.0	25.0	△ 25.0
3 仕入単価	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従業員数					12.5	87.5	0.0	12.5	12.5	87.5	0.0	12.5
5 資金繰り					0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D・I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
	16.7	83.3	0.0	16.7		83.3	16.7	0.0	83.3		0.0	66.7	33.3	△ 33.3

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	12.5	25.0	0.0	37.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	37.5	12.5	0.0	50.0	11 需要の停滞	12.5	0.0	12.5	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	37.5	12.5	12.5	62.5	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	12.5	25.0	37.5	無回答	0.0	37.5	50.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ ウッドショックなどによる材料の値上がりと品不足。
- ・ 社員の高齢化と若手社員の確保難。
- ・ コロナによる銅線価格の高騰。
- ・ 設備機器の供給遅延による施工遅延。
- ・ 職人は年末までスケジュールが埋まっているため、確保できない状況。

- ・ 左官などの職人や若い人の人手不足。
- ・ 人手不足による人件費の高騰。
- ・ 県外ではワクチン接種証明、陰性証明を求められ仕事が行いにくい状況。

《卸 ・ 小 売 業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7~9月)と比べた 今期(令和3年7~9月)の状況				前期(令和3年4~6月)と比べた 今期(令和3年7~9月)の状況				今期(令和3年7~9月)と比べた 来期(令和3年10~12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	33.3	27.8	38.9	△ 5.6	42.1	15.8	42.1	0.0	36.8	36.8	26.3	10.5
2 採算	22.2	50.0	27.8	△ 5.6	21.1	42.1	36.8	△ 15.8	31.6	36.8	31.6	0.0
3 仕入単価	38.9	55.6	5.6	33.3	36.8	57.9	5.3	31.6	52.6	47.4	0.0	52.6
4 従業員数					0.0	88.9	11.1	△ 11.1	11.1	88.9	0.0	11.1
5 資金繰り					11.1	66.7	22.2	△ 11.1	16.7	61.1	22.2	△ 5.6

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		10.5	63.2	26.3		-15.8		21.1	73.7		5.3	15.8		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	26.3	21.1	10.5	57.9	8 設備店舗の狭小・老朽化	10.5	10.5	10.5	31.6
2 大企業進出による競争激化	0.0	10.5	5.3	15.8	9 取引条件の悪化	5.3	0.0	0.0	5.3
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	10.5	0.0	10.5	21.1
4 原材料高及び不足	15.8	0.0	21.1	36.8	11 需要の停滞	10.5	36.8	15.8	63.2
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	5.3	10.5	10.5	26.3	13 その他	10.5	0.0	5.3	15.8
7 人件費の増加	5.3	5.3	0.0	10.5	無回答	0.0	5.3	10.5	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・ コロナ禍で東南アジア工場の停止等で商品の遅れ、品切れが発生。
- ・ 業界としては大手ほど厳しい状況。
- ・ 半導体や一部分不足のため、メーカーの生産に支障をきたしている。年内の市場への製品供給正常化は絶望的な状況で、受注はあるが売上ができない。
- ・ 建設資材の高騰、製品が入らないことによる着工と工期遅れが深刻化。年末に向けての売上に多大な影響が懸念される。
- ・ 材料の値上げが続いているが価格に転嫁できていない。
- ・ 仕入を減らしていないため、コロナで来店客が減ると資金繰りが厳しい。
- ・ メーカーの商品欠品が多数あり、仕入れできず出品中止している商品もある。
- ・ ネット購入増加により、店頭購入減少。

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7～9月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				前期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				今期(令和3年7～9月)と比べた 来期(令和3年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	35.7	14.3	50.0	△ 14.3	28.6	28.6	42.9	△ 14.3	50.0	42.9	7.1	42.9
2 採算	23.1	46.2	30.8	△ 7.7	23.1	53.8	23.1	0.0	38.5	53.8	7.7	30.8
3 仕入単価	35.7	64.3	0.0	35.7	21.4	78.6	0.0	21.4	21.4	71.4	7.1	14.3
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	7.1	92.9	0.0	7.1
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	92.9	7.1	△ 7.1	7.7	76.9	15.4	△ 7.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		0.0	50.0	50.0		-50.0		42.9	28.6		28.6	14.3		7.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	57.1	7.1	14.3	78.6	8 設備店舗の狭小・老朽化	7.1	14.3	14.3	35.7
2 大企業進出による競争激化	7.1	7.1	7.1	21.4	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	7.1	0.0	7.1
4 原材料高及び不足	7.1	7.1	0.0	14.3	11 需要の停滞	7.1	14.3	0.0	21.4
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	7.1	0.0	7.1	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	7.1	7.1	0.0	14.3	13 その他	7.1	0.0	0.0	7.1
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	0.0	28.6	64.3	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 移動制限があり宿泊業は売上が伸びにくい状況。
- ・ 売上の半分がクーポン利用。期日を守って換金すれば2週間程度で入金されるが、過ぎると1ヶ月以上かかることもあり、売掛が大きくなる傾向にある。
- ・ 美容業では、大手の進出により、多様化した店が増えている。また、地元の店舗閉店に伴う、スタッフの独立でも店舗数は増えている。
- ・ 美容業では、イベント等がなくなり、お客様の来店周期が伸びている。

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年7～9月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				前期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和3年7～9月)の状況				今期(令和3年7～9月)と比べた 来期(令和3年10～12月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	0.0	16.7	83.3	△ 83.3	0.0	41.7	58.3	△ 58.3	50.0	25.0	25.0	25.0
2 採算	0.0	16.7	83.3	△ 83.3	0.0	27.3	72.7	△ 72.7	27.3	36.4	36.4	△ 9.1
3 仕入単価	58.3	41.7	0.0	58.3	50.0	50.0	0.0	50.0	58.3	41.7	0.0	58.3
4 従業員数					11.1	77.8	11.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					0.0	27.3	72.7	△ 72.7	18.2	36.4	45.5	△ 27.3

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D・I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		8.3	8.3	83.3		-75.0		8.3	33.3		58.3	-50.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	75.0	8.3	0.0	83.3	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	16.7	8.3	25.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	8.3	16.7	25.0
4 原材料高及び不足	16.7	33.3	25.0	75.0	11 需要の停滞	8.3	16.7	25.0	50.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	0.0	8.3	8.3	16.7	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	0.0	8.3	16.7	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 肉、魚、エビ、カニなど様々な食材が上昇。食材の値上げへの対応が課題。
- ・ 年末の繁忙期や、コロナ収束後の本格稼働時の人員確保に不安。
- ・ コロナ感染者数の増加が、飲食店の繁忙期と毎回重なり、例年の売上にはほど遠い。
- ・ 珈琲生豆価格上昇、外国から輸入される商品の価格上昇。

- ・ 飲み会の減少
- ・ コロナ感染が無くなるか、飲み薬でもできない限り回復は見込めそうにない。
- ・ 出雲の業況は厳しい。コロナという病気より世間体を気にするため、解禁になってなかなか出ないと思う。